

当たる!

広報クイズ②⑤

●3月定例会市議会で平成3年度の予算案が可決されました。遣われるお金、歳出の中で最も割合の高いのは何でしょう?

A 教育費
B 民生費
C 土木費

(ヒント①3ページ)

●4月から毎月1回、1日職業安定所「ハローワークトピア・しろね」が開設されることになりました。毎月の開設日はいつでしょう?

A 第1金曜日
B 第2金曜日
C 第3金曜日

(ヒント②22ページ)

●3月1日現在の白根市の人口は何人でしょう?

今月の問題

- A 53, 253人
B 46, 802人
C 36, 452人
- (ヒント②4ページ)

応募の方法

はがきに答えの記号(例①-A)、住所、氏名、年齢、広報しろねへのご意見、ご希望などを書いて送ってください。全問正解者の中から抽選で五人に五百円の図書券を、三人に県立自然科学館の招待券をペアで差し上げます。

○あて先 〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所 広報クイズ係

○締め切り 四月十八日(木) 必着

○抽選 四月十九日に市役所に来られた人に抽選していただきます。

○発表 五月一日号

当選おめでとう!

- 〔500円の図書券〕
- ▼浅原あや子さん(上下諏訪木・30歳)
 - ▼広野人美さん(白根・10歳)
 - ▼藤尾いづみさん(下木山・9歳)
 - ▼武藤明日香さん(赤浜・1歳)
 - ▼坂井麻由美さん(白根・19歳)
- 〔県立自然科学館招待券〕
- ▼高井純也くん(庄瀬・9歳)
 - ▼須藤編憲さん(小坂・10歳)
 - ▼増田正洋さん(旭町3・42歳)



3月20日に市役所に来られた富山源一さん(菱湯2)に抽選していただきました。先月号の正解は①C②B③Cでした。応募総数は91通で、全問正解は69通でした。

市民談話室

原稿募集

5月1日号の原稿を募集します。皆さんが日ごろ考えていることや身近な出来事など、気軽に投稿してください。字数は400字から500字程度とします。あて先は、〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所 企画調整課 広報広聴係 (☎373-2111④333) です。



免許証更新手続きに思う

小林健治郎さん(東町1丁目会社員・四十二歳)

白根に来て二十五年、今ではすっかり白根人(もん)という感じの今日このごろです。「住めば都」というとおり、第二の故郷としてこよなく白根を愛し、わが子にも新潟県、白根市の風土など、自慢げに教えています。

三年前の五月でしたか、自動車免許証更新手続きが、全部聖籠町の交通安全センターに移行されました。身近に警察署があ

りながら、遠く聖籠まで行って、書き換えをしなければならぬ不便な所になってしまいました。三年に一回警察に行き、手続きをすることにより、気持ちも新たに感じるようになりました。

「町の茶飲み話の一言」

○ヤア、来月免許書き換えで聖籠まで行かねえか。カッパ。聖籠までドノクレ、カッパ。聖籠。昼なら一時間ダローネ。免許書き換えで一泊になるネ。

△俺の仲間なんか、停止くって聖籠まで行ったミテラケド、朝一番の電車に乗って、帰ってきたんが夕方の五時ラッタテヤ。



近ごろ思うこと 何かスポーツを

辰口朋子さん(戸石新田会社員・二十三歳)

このごろ「だいたい体がなまってきたなあ」と思います。学生のころは「体を動かそう」と思わなくても、クラブ活動をしていたので、自然なこととして運動していました。しかし今では本当にやろう!と思わなければ、運動する機会はないといっているほどです。

そんなわけで、今一番やりたいたいと思っているのはスポーツです。(単純なことですが、なかなかやれないので...) やりたいものはゴルフ、テニス、水泳などたくさんありますが、その中で一つぐらいもともとできることを探していきたいと思っています。



高齢者大学に学んで 利益を超えた助け合いを

野内熊太郎さん(砂押2・無職・六十八歳)

昨年、県主催する高齢者大学に学び、得ることが多かった。その一部を紹介したい。高齢化社会が早い速度で一年ごとに進んでいくことはだれもが知っている。世界一の長寿国日本は、欧州諸国などより二十

年早く高齢化が進んでいる。同じ日本でも新潟県は他県よりも七年も早いとのこと。

これからは、高齢者がどうやって生きていくべきかが最大の難問だと思う。一日でも長く、若い人の足手まといにならないようにと、高齢者は願っている。寝たきりになると家族が大変だ。身の回りの介護など、若い人たちが働かねばならない。家庭の主婦にしても三百六十五日介護するわけにはいかない。疲れて病気にでもなったらダブルパンチ、二重苦でどうにもならない。自分の健康は自分で守らなくてはならない。もはや高齢者は利害関係を第二とし、利益を超えた助け合いが必要だと思う。そして新しい人間性ある共同社会をつくり、各人の個性、能力を発揮し、生きがいある心豊かな老後のための新しい地域づくりが必要といわれている。

健康とは目が見えなくても、耳が聞こえなくても、手が不自由でも、社会のために生きてゆくことである、とのこと。



ふるさと村建設に望む 現在の教委敷地はどうか

荒木 宏さん(和泉・農業・六十八歳)

(仮称)しろねふるさと村建設予定地について、私の意見を申し上げます。

日進月歩の今日、駐車場が広くなるとは、広く市民の用に供することはできません。

また、歴史の浅い白根市であっても、すべての史料を残すことこそ、未来に必要かと思えます。そこで、資料館はじめ、図

書館、中央公民館および関係事務局なども含めた総合ふるさと館が望ましいと思います。それには、現在の教育委員会の場所が最も適地かと思えます。

未来の白根市発展のため、ふるさとを思う子孫繁栄のためにも、長期の展望に立った、悔いのない計画と実現を目指し、努力していただきたいと思えます。



楽しくスポーツを 子供とパドミントン

吉森トイさん(泉月町主婦・四十二歳)

毎週土曜日の夜、白根一中の体育館で、子供たちや主人とパドミントンを楽しんでいます。ルールも何も知りませんが、子供の打つシャトルに振り回され、前へ、横へ。分かっているつもりも、持ちだけが先にいって、体がついていかず、いつも笑われています。

いつの間にか子供に追い越さ

れてしまいました。これもまたうれしいことです。子供が小さいとき、体を使って遊んでやれなかった分、いつまで続くかわかりませんが、頑張ってみていきたいと思います。家族と一緒にできる楽しいパドミントンが私の一番幸せな時間です。

市民文芸

短歌

正月に孫にせがまれ暮を打ちて
歌声上げし夕べたのしき
小出よし
立春と言えど寒さは去りやらず
草木芽はゆる春を待つ我が
小出熊四郎
制服の試着手伝う母の背に
遠からず超ゆ孫の背の丈
中村 京

川柳

ジョギングで骨の髄まで老いを知る
荒木 イマ
閉会と言われ未練な残り酒
早川 英男
選挙戦アルマの目にも運不運
山岡 フミ
玉つきの巻き添え食った高級車
米野 光雄
点滴の針が助けている余命
吉川 彰
網棚に呆けの兆候置いてくる
今井 七郎
神様の助けを借りる受験生
織田 セツ
お月様一呑みにした水溜まり
後藤マサノ
七人の敵を助けて酔いつぶれ
佐藤トミノ
アンコール止まず級帳落ちきれぬ

春を待つ老いに似ている冬の蝶
佐藤 ヨキ
返済を期待はしない額を貸す
高橋祐四雄
災いは見栄が選んだ調度品
田中 成子
姑の手料理味が舌を褒め
田村 恒夫
また元の木阿弥軍事評論家
中村 尚治
このリズム崩せば人に追い越され
西条 ムラ

俳句

炉には炉の庫裡には庫裡の話しあり
成沢 素明
月冴えて夜の底なる田舎町
公条 雪夫
雪やんで童話の景色そのままに
和泉 伸子
恋猫の帰る隙間を開けて寝る
安沢 飛浪
白鳥の人々に馴れ沼に馴れ
猪股 南魚
地吹雪の空に輝く鳥かご
豊木サグ子
新しき鍋に七草粥を炊く
細貝 溪子
瘤の瘤を目がけて打割リぬ
山田 孝
鉄を手に敵送るさま康具市
五十嵐寛吾
折鶴に春の香りを吹き入れし
堀内ナナ子
春立ちて娘の縁談まどまりぬ
小林 光子
野仏の膝につもりし吹雪かな
(以上大風会)
玉木 長吉